

日本語待遇表現の評価実験による誤用とその認知について

関 彩子 石崎 俊
慶応義塾大学 政策・メディア研究科

1.はじめに

「若者の言葉遣いはなっていない」と言われて久しいが、特に敬語の乱れや無知については様々なメディアで取り上げられている。

今回、最近の学生の間で混乱していると言われる日本語の待遇表現(主に敬語)について、学生による評価実験を行った。評価実験は、誤用例を提示し、自然さと使用頻度(6段階)、聞く機会がどのくらいあるか(6段階)、誰から聞くか(例:友人、両親、祖父母)等を回答してもらうものである。

言葉には、本当は誤りであっても使う人が増えて社会的に承認され、言語体系の中に組み込まれる性質がある。評価実験では、誤用パターンを明らかにするために、待遇表現の誤用がどの程度認知されているかを調べている。将来は、コンピューターに誤用文を指摘、訂正させることを目標としている。

2.評価実験

2.1 概要

評価実験は、間違った使い方をしている短文を提示し、それについて、下記の問いに答えてもらうアンケートである(被験者には間違っていることを伝えていない)。また、実験は Web 上で行い、実験結果は自動的に実験者に戻る。

表1 評価実験の質問

問題 1-1 あなたにとってこの言い方は自然ですか。	
1. とても自然であり、いつも使う。	
2. 自然であり、よく使う。	
3. 自然であり、時々使う。	
4. 不自然だと感じるが、時々使う。	
5. 不自然だと感じるので、あまり使わない。	
6. 非常に不自然なので、絶対に使わない。	
問題 1-2 「使わない」と答えた方(5、6を選択した方)に伺います。なぜ使わないのですか。	
問題 1-3 他の人が問題のように言うのを聞いたことがありますか。	
1. 非常によく聞く。	2. よく聞く。
3. 時々聞く。	4. たまに聞く。
5. めったに聞かない。	6. まったく聞かない。

問題 1-4 どのような関係の方から聞いたのですか。
(複数可) 例: 友達、先輩、後輩、先生、父母等
問題 1-5 別の言い方をするならどのように言いますか。

2.2 敬語に対する意識

被験者は 19 歳から 29 歳の男女 300 人(男性 195 人、女性 105 人、男女比 約 3:2)である。無作為に 1 グループ 25 人ずつに分ける筈だったが、実験途中でやめた人がいるので、人数にばらつきがある。

「あなたは目上の人と話をする時、うまく敬語が使えますか」と聞いたところ、「1. うまく使える 20.0%」「2. 大体うまく使える 62.4%」「3. あまりうまく使えない 14.7%」「4. うまく使えない 3.2%」となった。参考文献 [1] では、敬語の使い方に自信がありますかと尋ねると、「かなりある」という答えは 13.6%にすぎなかったそうだが、敬語の使い方に自信があるかについては、全体の 82%が「うまく使える」と回答した。グループ間の差はほとんどないと思われる。

表2 敬語への意識

	1	2	3	4
Group1	18.2	59.1	18.2	4.5
Group2	19.0	66.7	9.5	4.8
Group3	35.3	38.2	26.5	0.0
Group4	25.0	66.7	4.2	4.2
Group5	12.0	66.0	14.0	8.0
Group6	4.5	77.3	13.6	4.5
Group7	19.0	66.7	14.3	0.0
Group8	14.3	71.4	9.5	4.8
Group9	9.5	54.5	23.8	0.0
Group10	27.5	45.5	13.6	4.5
Group11	45.5	70.0	9.1	0.0
Group12	10.0	62.4	20.0	0.0
平均値	20.0	62.4	14.7	3.2

凡例
1 うまく使える
2 大体うまく使える
3 あまりうまく使えない
4 うまく使えない

3.分析

3.1 待遇表現の誤用について

参考文献 [1] では大きく 7 つに分類している。

(1) 語形の単純な誤り

- (2) 謙譲語と尊敬語の混同・混用
- (3) 謙譲語の機能を正しく理解していないための誤り
- (4) 「いただく」「くださる」に関する文法的な誤り
- (5) 身内を高める誤りなど
- (6) 過剰敬語
- (7) 文体上のアンバランス

「(7) 文体上のアンバランス」については今回の実験では行わなかったため、(1) から (6) に関する学生の反応を分析する。

3.2 学生の反応

3.2.1 語形の単純な誤り

3.2.1.1 「お/ご」の使い分けの誤り

「少々、ご時間をいただけませんか」(Group8 回答数 21、男性 16、女性 5、無回答 1) について、自然と感じる：5 (問題 1-1 で 1~3 に回答)、不自然：15 (問題 1-1 で 4~6 に回答) を得た。「ご時間」を使う人の年代を聞く (複数回答) と、自分と同世代の人：5、親世代の人：5、テレビ：2 であった。

表 3 誤用の認知について(1)

Group	検討語	自然	不自然
8	ご時間	5(24%)	15(71%)

(単位：人、括弧内はグループでの割合)

3.2.1.2 「お/ご~される」

「どちらへご就職されたのですか」(Group7 回答数 21、男性 11、女性 10) について、自然と感じる：8 (男性 2、女性 6)、不自然：13 (男性 9、女性 4) を得、38%が「お/ご~される」で敬意を表すと感じている。

表 4 誤用の認知について(2)

Group	検討語	自然	不自然
7	ご就職される	8(38%)	13(62%)

3.2.2 謙譲語と尊敬語の混同・混用

3.2.2.1 「お/ご~して下さる(ください)/いただく」

「~さんにお話していただきました」(Group5 回答数 50、男性 30、女性 20) について、自然と感じる：37 (男性 23、女性 14)、不自然：13 (男性 7、女性 6) を得、74%が「お/ご~していただく」に敬意があると感じている。

表 5 誤用の認知について(3)

Group	検討語	自然	不自然
5	お話していただきました	37(74%)	13(26%)
2	お気をつけてください	9(43%)	12(57%)
5	ご協力してください	17(34%)	33(66%)
4	ご記入してください	6(25%)	18(75%)
11	お力になってください	3(14%)	19(86%)

「ご記入してください」では、誤用であると判断している割合は 75%だが、内訳を見ると「4.不自然だと感じるが時々使う」を選択した人が最も多い。

「話す」「気をつける」「記入する」といった日常よく使う言葉ほど、誤用の認知率も高い。

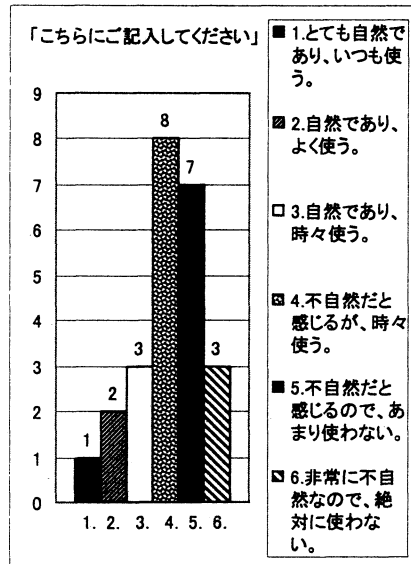


図 1 単純集計 (単位：人)

3.2.3 謙譲語の機能を正しく理解していないための誤り

3.2.3.1 相手や高めるべき人を主語として謙譲語を使う

「係の者から引換券をいただいてください」は誤用と判断している人の率が高いが、「いたす」を尊敬語として扱って自然と答えている人が多い。

3.2.2.1 とは反対に、日頃使わない言葉を使って失敗するという誤用である。

表 6 誤用の認知について(4)

Group	検討語	自然	不自然
3	どうかいたしましたか	12(35%)	22(65%)
3	いただいてください	5(15%)	29(85%)

3.2.4 「いただく」「くださる」に関する文法的な誤り

表7 誤用の認知について(5)

Group	検討語	自然	不自然
8	見させていただけます	9(43%)	11(52%)

「資料を見させていただけます」は「拝見します」で十分なのだが、別の言い方では、拝見します(1)、拝見させていただく(14)、見せていただく(2)、見せてもらいます(1)、見ます(1)の回答を得た(括弧内は人数)。「拝見させていただきます」と過剰に敬語を使う傾向がある。

3.2.5 身内を高める誤りなど

自分について話す時に「～な人」と使う(例:私は神経質な人なので～)のを最近耳にするので質問したところ、62%が自然であり、使うと回答した。

表8 誤用の認知について(6)

Group	検討語	自然	不自然
7	～な人	13(62%)	8(38%)

誰から聞くかでは、友達(18)、兄弟(1)、両親(1)が挙げられた。学生の間で認知されつつあることがわかる。

3.2.6 過剰敬語

「とんでもない」を丁寧に言うつもりで「とんでもございません」と言う誤用(正しくは「とんでもないことです」等)についても調べた。

表9 誤用の認知について(7)

Group	検討語	自然	不自然
5	とんでもございません	35(70%)	15(30%)

誰から聞くかの内訳は、祖父母の世代(8:内、女性が言う)と回答6)、親の世代(52:内、女性が言う)と回答47)、兄、姉(2)、先輩(1)、友達(8)、テレビ(8)であり、中高年の女性が使うと答えた人がほとんどだった。

3.3 男女差

誤用に対する反応に、男性と女性で大きな差があるとは思わないが、ウィルコクソンの順位と検定で調べたところ、男女差が現れたものがあった。

3.2.1.2 「お/ご～される」で取り上げた「ご就職される」(表4)では、男性よりも女性のほうが自然であると回答した。

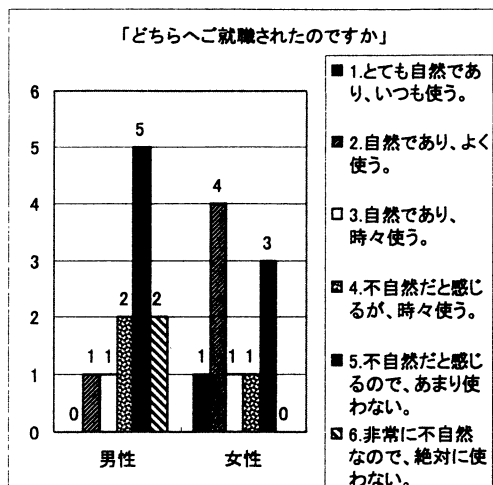


図2 単純集計

ウィルコクソンの順位と検定で男女差の現れたものを見ると、男性よりも女性のほうが、自分に対してへりくだる傾向がある。また、女性のほうが相手に対して丁寧な言葉遣いをしようとし、過剰に敬語を使う傾向がある。

4. おわりに

被験者は敬語に自信があると答えていたが、どのグループでも提示した誤用例を正しいと認知している。「あげる」を「差し上げる」のように、動詞を変換出来ない反面、「拝見させていただく」のように過剰に敬語を使ってしまう傾向もある。

今後、コンピューターが待遇表現の誤用を指摘、訂正できるよう、誤用パターンの分類を進めたい。

参考文献

- [1] 菊地康人(1994)『敬語』角川書店
- [2] 水谷静夫(1995)『待遇表現論提要』計量計画研究所
- [3] 岩淵悦太郎(1979)『悪文』第3版 岩波書店